

学年
通信

魂知輪

令和6年4月26日
第9号
小代中学校3年生
発行者:梅谷俊平

みんな違って みんないい だから…

光彦「どうして人は人を傷つけたりするのでしょうか。」

あゆみ「みんなが仲良く暮らせれば良いのにね。」

灰原「無理ね。人には感情があるもの。目には見えないうえにとっても変わりやすい厄介なしろものがね。それが友情や愛情なら良いけど、何かのきっかけで嫉妬や恨みに変われば…」

元太「俺の母ちゃんと父ちゃんはしょっちゅう喧嘩しているけど仲良いぜ！」

阿笠博士「それはお互いに思いやる気持ちを持っているからじゃよ。人はふとした事で傷つける側にも傷つけられる側にもなる。そうならないためには相手のことを思いやる気持ちが必要なんじゃ。」

毎日、コナンの過去の映画を2本ほど繰り返し見ているのですが、(まだ最新作は見れていない)好きな映画、個人的ランキング上位にも入る、「水平線上の陰謀(ストラテジー)」の中で心に残っている会話シーンを載せてみました。

約38億年前に生まれた細胞は、自分と同じゲノム(遺伝情報)を持つ細胞を生み出した。そしてその28億年後、2つの細胞が融合し、ゲノムを混ぜ合わせて新しい個体を生み出す有性生殖のしくみが生まれた。ゲノムを混ぜ合わせると、親とは異なる個体が生まれる可能性が高まるので、現在の多様な生きものを生み出す原動力となったと考えられている。ヒトも同じく、精子、卵に含まれるそれぞれ23本の父由来と母由来の染色体を受け継ぎ、46本の染色体をもつ受精卵として人生をスタートする。実は2つのゲノムの混ぜ合わせだけなら細菌でも見られ、有性生殖に限ったことではない。約10億年前に起こった有性生殖が生み出された時に新しく登場したのは、混ぜ合わせた染色体を正確に半分にして生殖細胞をつくる減数分裂のしくみである。

単純に計算をしてみると、46本の染色体を父由来から23本、母由来から23本受け継ぐ。いずれの染色体も減数分裂の際に2通りから選ばれるので…

$$2^{46} = \text{約7兆通り}$$

ということになる。更に、父と母が会う可能性を考えてみよう。人は生涯に4000人と出会うと言われています。その中で恋愛対象になる人物は300人程度だそうです。

要するに、7兆×300=2100兆。私たちは、2100兆ある選択肢の中の1つが選ばれて、それが基になって成長して、今があるのです。

ものすごく、前置きが長かったですが、最後に何が言いたいかを言いますね。

価値観なんて、人それぞれ違って当たり前。同じものを見て、美しいという人もいれば、そうでないという人もいる。違うことに疑問を持つこともある。不安に思うこともある。それはお互いに同じ。阿笠博士が言うように、相手を思いやる気持ちが大切なのです。こんなこと言われたら嫌かな。こんな声かけしてくれたら嬉しいかな。

そんなことを考え、時には失敗もし、失敗したときには

いいよお～

って言ってあげましょう。人は誰でも失敗する。失敗して、成長する。だから、どこかで、『ごめんね』からの『いいよお』と言うことがお互いに出て、今を思いっきり楽しむ努力が出来ればいいなと思います。

参考・引用) RESEARCH 減数分裂 多様さを生み出す厳格なしくみ

東京大学分子生物学研究所教授 渡邊嘉典

名探偵コナン『水平線上の陰謀』

先生方からのありがたいお言葉